



## 夏休みが終わります・・・

いつも大変ご無沙汰をしております。日本も毎日暑い日が続いているようですが、皆様お元気で過ごしのことと存じます。また、新学期が始まり、お忙しくされておられるのではないのでしょうか。

ここバンコク日本人学校は、8月6日～9月3日までが夏休みです。

夏休みは、昨年と同様『職員研修（8/8～10）』がありました。今年度はタイの東北地方「イサーン」への研修でした。この研修は毎年行われており、3年周期で『北部（チェンライ）→東北部（イサーン）→南部（ナコーンシータマラート）』の現地の学校を訪れ、タイの子どもたち



に日本文化を伝える授業（もちろんタイ語・・・）を行うというものです。僕は、今年からは研修の運営側に入ったので、事前の実地踏査で現地校を訪問して打ち合わせをするなど大変な面も多かったです。しかし、子どもたちや先生方が「また今度（夏休み）、絶対に来てね！楽しみにしているよ！！」と帰りのバスが見えなくなるまで手を振って見送ってくれる様子はまさに「うるるん滞在記」です。そんな感動的な別れに、日々の忙しさも忘れ、また心を新たに「頑張ろう！」と思えます。

本番では67名の教員とともに現地校200名の子どもたちに授業を行いました。剣玉や福笑い、折り紙、そして高学年には理科の実験などの授業に、どの子どもたちも笑顔で一生懸命な姿勢で参加してくれ、僕たちも充実感いっぱいイサーンを後にしました。

夏休みは、娘がまだ小さいため残念ながらどこにも出かけられませんでした。自宅近くのスーパーまでのプチ旅行の日々が続きました。

2学期はスーパーマーケット見学や現地校との交流学习会、そして11月の大運動会と、目の回るような忙しい日々が待っていますので覚悟して新学期に臨みたいと思います。



# タイ国際航空見学

8月22日（水）に現地理解の一環で空港見学に行ってきました。

今回はタイ国際航空さんのご協力で、①スワンナプーム国際空港内の案内②航空貨物の仕分けの様子③飛行機整備工場の見学をさせていただきました。

通常、一般の客は立ち入ることができない空港内部を案内してもらいました。現在、スワンナプーム空港はアジアでは最大級の大きさをもつハブ空港として世界各地を結んでいますが、その大きさと、乗客・貨物の処理能力が追いついておらず、大きな課題となっているようです。しかし、10年計画でさらに増築し空港を広げる計画にしているそうです。

そして今回の研修のメインイベント、飛行機の整備工場見学です。近くで見る飛行機のタイヤは想像以上に大きかったです。また、整備中の飛行機の中に入れてもらえ、ファーストクラスに座ってみたり、なんとコックピットにも入ったりもできました！！コックピットの扉が開いていたので、ダメ元で「入って良いか」と聞いてみると、タイ人が大好きなフレーズ「OK!マイペンライ！（気にするな）」と。この言葉は、何かトラブルがあってもたいていの場合、こう言えば許してもらえるタイ人氣質・国民性を表す魔法の言葉です（笑）しかし、この言葉で許さなければならなくなることの方が多いですが（^o^）。「マイペンライ」で互いに許し合える、そんな素敵な【微笑みの国、Thailand】なのです。



スワンナプームに到着する貨物



ジャンボジェットのタイヤ（Wheelだけで何と100万円!）



整備工場で



ファーストクラス



シートって前に倒れるのですね（^o^）





# 春休みに入りました

先生方、大変ご無沙汰をしております。バンコク日本人学校の岡崎です。

多忙を極めた3学期も、日本より一足お先に3月13日より春休みに入りました。この休みが一年で一番長い休みで、始業式はタイ正月（ソクランと呼ばれる水掛祭り）明けの4月19日となります。しかし、4月1日からは25年度派遣者の来タイに備えての準備や小中合同会議などためまぐるしい一年が始まります。ここバンコク日本人学校では、帰国者からの引き継ぎなどもあるため、部長職（教務関係）は12月中、学年担当も2月に次年度の人事が発表されるので、3学期の担任をしながら次年度の役職・学年を知らされるという、日本では体験できない経験をさせられます。もう一年勤務するはずだったのに帰国される方や、予想外の人事異動など少々早すぎる発表で何とも言えない感覚に陥りますが、これも日本人学校ならではのなのかと思ひ職務に専念しています。

## プーケット補習校へ行ってきました！

昨年の12月に2泊3日でタイ南部の街プーケット補習校の巡回指導に行ってきました。補習校というのは、日本人学校が無い地域で、土曜日（日曜日もある場合有）のみ開校される、日本人による日本語の指導が行われる学校のことです。子どもたちは、平日は現地（タイの地元の学校）もしくはインターナショナルスクールに通い、週末は補習校という過密なスケジュールをこなします。子どもたちを指導するのは現地に住むボランティアの方や保護者となり、日本人学校のように文科省から派遣される場合はよほど大きい学校でない限りありません（あったとしても児童生徒100人に対し校長という形で一人）。そこで日本人学校より毎年、文科省の補助を受け「巡回指導」という形で実際に授業をしたり、ボランティア先生に授業の進め方などをアドバイスしたりするのです。

プーケットといえばディカプリオ主演映画「The Beach」の舞台となったピピ島など、きれいなビーチを想像されるかもしれませんが、僕も実際に行くまではそんなイメージでした。が、補習校に着いてみると海とは全くかけ離れたオールドタウンで、街中の一角にあるビルの一室が教室となっており、最初教室を紹介されたときは驚いたのを覚えています。

そこに通うのは小中合わせて30人ほど。子どもたちの家庭



この2, 3階部分です！



朝礼の様子

環境は様々。両親とも日本人でプーケットで自営業をしている家庭、現地のタイの方と結婚している家庭、中には両親ともタイの方で日本語学習を希望されている家庭もありました。クラスは学年ごとに分かれていましたが、日本語の習熟度は個々に全く違いました。1年生でも平仮名の読み書きができる子もいれば、6年生であってもほとんどできない子も。そんな中で教科書に沿った学習をしなければならないという厳しい現実が待っていました。

今回僕は、低学年を担当することになり、「助詞を中心に」という要望があったので、教材を用意して授業に望みました。

まず、教室がビルの一室という環境に驚いたのですが、次に、授業規律ができあがっていないことに驚かされました。授業が始まると、席について教師を待つというイメージであったのですが、実際は全くそうではありませんでした。自由に席を立ち、友達としゃべり、おやつも持ち込んでいます。タイの小学校やインターでも購買部で飲食物が購入でき自由に飲食ができますが、さすがに授業中では許されません。「なぜ・・・」と最初は戸惑いましたが、ボランティアの先生にお話を聞くとある程度納得できました。

子どもたちは平日、通常授業（タイ語または英語）をこなし、さらに休日に半日または一日を使って授業を受ける。週6日授業をしているのです。子どもたちは、できれば参加したくないという気持ちで来ている子が多いのだそうです。その現状を聞いて、複雑な気持ちになりました。確かに僕たちは日本の子どもたちに、「日本人学校」という整った環境で教育活動を行っています。しかし、同じタイでも、その環境がない子たちはこのような現実の中で頑張っているのです。親の仕事でやむを得ず。子どもたちはその環境を選べない中、頑張っているという現実を考えさせられました。



しかし、補習校巡回指導は、先生方に日本の授業を見てもらい自分たちが伝えられることを残すことが目的であるので、少々路線は変更しましたが、国語を中心に算数や図工など2日間、計10時間の学習を終えました。

規律はなっていませんでしたが、子どもたちの学習に対する姿勢や、教材を見つめる眼差しは日本の子たちと全く同じで、こちらが一工夫したものに関しては目を輝かせて飛びついてきました。その様子を見て、昨年の職員研修（タイの現地校で授業をする研修）でも思ったことですが、教師が綿密な教材研究をし、子どもたちにつけたい力を明確にして、そこに向かうための手だてをしっかりと取ることが何よりなのだ痛感しました。日々の業務に追われ教材研究する時間があまり取れなかった自分を強く反省させられました。



来年度は、教員生活初の担任外の業務に就きます。この一年は担任とは全くかけ離れた仕事となりますが、この一年間を有意義なものにしていくために、バンコク日本人学校をよりよいものにしていくというビジョンをしっかりとって、自分の分掌に取り組んでいきたいと思えます。

今回はおもしろいことを一つも書けずにごめんなさい(+\_+)